

# サーキット・ライダー 2003年11月号

## 感謝祭だけでなく、いつも喜び感謝する

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。ローマの信徒への手紙 12:15.

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5:16-18.

木枯らし舞い、雪ちらつく季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。私は、例年この時期、温度差が激しく寒くなるのに体が順応しきれず、アレルギーや風邪、インフルエンザで体調を崩してしまいます。今年も例外に漏れず10月下旬から何だか調子が悪くなり頭がスッキリせず、先日、掛かり付けの医者に行きました。アレルギーが悪化した程度に思っていたのですが、実際にはそれよりも重く、医者に「血圧が高すぎる。軽度ではあるが脳溢血の疑いもあるし、今後も脳溢血が起こる可能性がある。今すぐ、血圧を下げる薬を飲み、脳のMRI(断面図を取るX線)を取りなさい。」と言われました。まあ、元々家系的に血圧は高いのですが、確かに通常値をはるかに超えていました。早速、MRIを取り、薬を飲み始めました。MRIの結果を待っていた数日は、既に脳溢血があったのか、或いはこれからなるのかという不安に眠れぬ夜を過ごしました。が、結果は平常の範囲で、これまでのところ脳溢血や異常はなしとのこと、一安心しました。薬は最初に処方して頂いた薬が合わず、副作用で朝、起きられなかったり、夕方になると極度の疲労と脱力感に見舞われたりと、更に病人状態になってしまい、別な薬を処方して頂きました。幸い2回目の薬は効き、副作用もなく、血圧もこれまで見たこともないような最良の数字になりました。

お陰でこの数週間は色々考えさせられました。日曜日の朝、説教に、と言うより体に力が入らず、説教も途中で汗を拭き拭きようやく終わらせるということが2回ありました。また無理して学校に行き、帰りには疲れで運転するのが億劫になるという体験もし、病気になると体力面、健康面もさることながら、気力や霊的な力も随分と影響されることを改めて経験しました。また同時にこのことから今まで頭でしか分かっていなかったことが体で、また心で実感できる恵みも頂きました。その恵みとは病気の方、薬を飲み続けなければならない方たちの気持ちが以前より理解できるようになった(と思う)ということです。

私は以前病院でチャプレンになる為のコースを取り、その後も時折、病院や老人ホームを訪問して患者さんの話を伺ったりしていますが、今まで本当に彼らの気持ち、絶望感、希望などが分かっていたかと自問すると、どうも頭だけで理解し、本当に心から彼らの思いになって、励ましの言葉を言ったり、聖書を読んだり、お祈りをしていたかどうか甚だ疑問です。しかし今回の経験を通じて彼らの多くが体験していることを体験しました。たまたまですが私が医者に行く前後に、パークリッジの教会員が脳溢血で倒れて入院しました。年配のご婦人で心配でしたが病院を訪問すると思ったよりも元気にふるまっていました。ただ右半身は麻痺していて右手も足も動かさず車椅子に乗っていました。幸い言語能力は影響を受けず、いつも教会で話すように、お喋りをしてくれましたその折、検査の話や、彼女がこれから高血圧の薬を飲まなくてはならないこと等、彼女の置かれている状況が自分のことのように把握できました。また他の教会員のご婦人で、いつもは元気になっている方ですが、最近、腎臓が悪くMRIを受けた方がいますが、その方を訪問した時も「いやあ、MRIは20分以上も体も頭も動かしてはならないし、検査中絶えず騒音で煩くて困りますね。お気持ちお察しします。」という話をして慰め、祈りました。ご存知のない方もあるかと思いますが、MRIはX線で頭や体の断面図を作るものでカプセルのような検査器の中に体ごと入れられ、20数分以上騒音の中、身動きできません。今まで知識では何となく知っていましたが、実際に受けてみると、結構不自由で、しかも私のMRIの途中で看護師さんがくれた耳栓が片方とれてしまい、20分くらい非常サイレンのような騒音を我慢しました。機械的な騒音の中身動きできないのはかなり辛いものがあります。

しかし、そんな経験もこうして振り返ると、もっともっと大変な思いをされている方々の気持ちを少しでも理解する為に与えられた機会であるように思えます。私のような者には、何事も実体験するのが良いようです。その意味では体調を崩したこともより多くの方と心の交わりをする為と感謝できます。私たちの人生の中で無駄な事は何一つありません、本人が視点を変えさえすれば、例え辛いことでも、悲しい事でも。喜びや嬉しい体験は言うまでもありません。ですから、皆さんもどうぞ日々の経験を更に生かす為、隣人と喜びも悲しみも分かち合ってください。

吉松 純